

玉成会だより

第 10 回記念同窓会 ご報告とお礼

多くの皆様のご参加・ご協力、ありがとうございました

第 10 回記念同窓会 実行委員長 小原木 正弘(11 期)

暑かった夏も遠く過ぎ去り、日一日と秋の深まりを感じる頃となりました。

去る 8 月 16 日の「札幌開成高等学校 第 10 回記念同窓会」は、多くの同窓生、現職の佐藤真理子校長先生、新旧教職員の方々が一堂に会し、たいへん盛大な集いとなりましたことを、皆様方にご報告いたしますとともにお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。実に 500 名を超える方々にお集まりいただき、実行委員長としてはこの上ない喜びを感じることができました。

また、参加者だけでなく、ご参加いただけなかった方々からも温かいご寄付をいただき、たいへん勇気づけられるとともに、予算面での不安も解消することができました。心より感謝申し上げます。

盛会のうちに幕を閉じ、多くの方々が笑顔で会場を後にされたことを嬉しく思いましたが、予想を超える来場者の多さや運営に不慣れな点もあり、行き届かぬことやご迷惑をおかけしたこともあったかと思えます。この場をお借りして、深くお詫び申し上げます。

さて、ここからは私の個人的な感想を少し述べさせていただきます。

今回の同窓会は 11 期、12 期、13 期、14 期が実行委員となって運営を担当しましたが、当初は玉成会の役員さんが中にいたこともあり、委員長という私自身の立場もそれほど重く受け止めてはいませんでした。何とかなるでしょうくらいの気持ちで...

しかし、実際に同窓会が近づいてくるに従ってだんだん慌ただしくなり、私などはこれまで大きな会を仕切った経験もないために、不安になった時期も正直ありました。

でも、今回の実行委員のメンバーはとても優秀で、本当に助けられました。特に 13 期の委員には総務屋さんがいて、物事の段取りをきちんと把握し、みんなにわかりやすく説明してくれたことで事がうまく進んだことも多く、非常に勉強になりました。

また、今回の同窓会の準備をして感じたのは、実にいろいろなことが起きるものだということです。ひとつの問題提起に対しても、10 人のうち 1 人が 2 人からは思いもよらぬ意見が出てくること。常識的にはこうだろうと思う人が大多数でも、まったく違う意見が飛び出すといった感じで、私などは呆然とするばかりでしたが、その総務屋さんはきちんと意見をまとめ、この方向でいきましょうと最善策に導いていくという具合なのです。なんとすばらしいことではありませんか。本当に感心してしまいました。

今回、実行委員を経験させてもらい、12期、13期、14期の後輩たちと一緒に同窓会の準備をできたことが私の一番の喜びであり、やって良かったとつくづく感じました。心から楽しかったです。

この喜びを、次回の幹事となる15期、16期、17期の皆さんにも味わっていただきたいと思います。確かにたいへんなことも多々あるかと思いますが、同じ開成で過ごした仲間たちがひとつになって仕事をするというのは、素晴らしいことです。そして、とても楽しい気持ちになります。

最後になりましたが、次回同窓会もたくさんの同窓生が集い、素晴らしい会になることを祈念して、第10回記念同窓会の報告とお礼とさせていただきます。

盛況に終わったことを皆様に感謝して

金川 道子(11期)

「あ、私手伝うわ。」

常任幹事の友人と話していて、こう言ったのが実行委員会の活動に参加させてもらうきっかけでした。今思い返すと、お手伝いとはなんと無責任な言い方をしたものでしょう。

初めて会議に参加した日、メンバー達と同窓会を成功させようという真摯で熱意溢れる姿勢に、感銘を受けたことは言うまでもありません。私はただ皆さんに倣っていたようなものですが、一つの目標に向かって活動したことはとても有意義でしたし、何より諸先輩や後輩の皆さんと交流が持てたことはとても素敵で貴重なことでした。

さて、様々な準備を経て最終段階を迎えた頃、出席者数が目標を達成したことを知り、私達実行委員は大いに勇気づけられました。

そして同窓会当日、予想を上回る当日参加者数に、席を追加配備したことは嬉しいハプニングでした。

業務の合間に覗いた会場はとても熱気に満ち、旧友と語らう同窓生の方々の笑顔を拝見し、この会の成功を実感しました。

私自身、過去に出席した同窓会もとても楽しいものでしたが、こうして実行委員を経験してみて、母校や共に学んだ友人達への思いが更に強くなったように思います。

次期幹事の方々、ご多忙の中の活動になるとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。また4年後、オリンピックのある年に再会するのを楽しみにしております。

最後に、ご出席いただいた多くの同窓生の皆様、活動を支えてくださった諸先輩・メンバーの皆さんに深謝いたします。

同窓会幹事としての雑感

宇山 茂一(12期)

今回、同窓会に幹事として関わってみての雑感を少し述べたいと思います。

卒業から30年の時間を経た中で、1年前に受験生の息子と話していて、ふと高校時代を思い出し、玉成会のホームページを検索しました。その中で、同窓会幹事の当番期が11~14期であることを知り、「何かお手伝いができることはないかなあ」という単純な想いでメールしたことがきっかけでした。

私達12期は実行委員会の中で「企画係」を担当。同窓会当日の進行管理をはじめ、イベントやノベルティの企画、恩師への寄稿依頼などが主な仕事でした。

本番の3カ月から当日までが特に勝負。中でも「記念品」の選定は、ぎりぎりまで決まらず、若干あせりました。同窓会当日はホテル関係者、司会者、実行委員ほかが一一致協力し、大きな混乱もなく、先ずは大成功だったと思います。

また私達12期は本州からの参加もあり、総勢60名弱で大いに盛り上がりました。30年間一

度も会う機会のなかった人達との交流もでき、有意義な時間を過ごすことができました。これだけで、同窓会のお手伝いできてよかったと思っています。

こんな私でも先輩や仲間たちの力を借りてお手伝いできたのです。次期の幹事の皆さんも、同窓会の成功に向けて全員で頑張ってください。

同窓会「広報係」顛末記

樋口 雅子(13期)

とにかく“熱い”夏だった。

「札幌開成高校 第10回記念同窓会」は、洞爺湖サミットも、北京オリンピックも、はるかに凌ぐイベントだったと思っている。私の中では...

およそ1年前の9月、11期から14期の実行委員10数名が初めて顔を合わせた時から、苦難の道のりは始まった。“名ばかり常任幹事”であった私が、少しだけ目覚めた瞬間である。

コピーライターという仕事柄、「広報」という役割を担うのは自然の流れと思い、無謀にも名乗りを挙げた。実行委員の中に、広告業に携わる先輩が2人もいることを知ったのは、直後のことである。

案内状・式次第パンフレット等の制作・印刷はスムーズに運んだものの、振込用紙の印刷には泣かされた。郵政民営化もどこ吹く風、電話の向こうにいる“お役所仕事”の主に、声を荒げたのは一度や二度ではない。

しかし、何よりも私たちを悩ませたのは、案内状の発送に必要な、卒業生名簿のデータメンテナンスである。

かつては冊子形式であった同窓会名簿がデジタルデータに変わり、そこに個人情報保護の観点加わるから、取り扱いにはさらに厄介になる。一人でも多くの参加を求めるには、各期の常任幹事に協力を仰ぎ、正確に修正されたデータの受け渡しが必要になるが、事はそう簡単ではない。また一方で、メールという一見ものすごく便利な伝達手段は、その手軽さゆえに、時として受け取る側を思いやる心を忘れ、意思の疎通を欠く場合がある。

たかだか20名に満たない実行委員間での「情報の共有」も難しいくらいだから、1万名を超える同窓生に周知を図ることがいかに困難を極めることが、今回の任務を通して痛いほどわかったのである。

とにもかくにも、500名を超える方々にお集まりいただき、同窓会は幕を閉じた。参加してくださった方が楽しいひとときを味わっていただけたものと信じるよりほかはない。当日判明分も含め、名簿データのメンテナンスも無事終了。すべてに満足できたわけではないが、充実した1年だった。実行委員の先輩方・後輩方と出会えたことも、大切な財産である。

だが、私たちの仕事はまだ終わってはいない。次回2012年の実行委員にうまくバトンパスすることが、最後の使命だと思っている。“陰の応援団”として、たくさんの先輩がいることを忘れないでほしい！

やっと終わりました！

丸山 よう子(14期)

とうとう幹事期が、きました。

何年も前から気にしておりました。毎回、同窓会参加率の低い我ら14期、参加者が3人の時もありました。幹事は誰がしてくれるのか、どうやって同期を集めようとか...、実は前回の同窓会が終わってから、とても心配になってきたのです。

でも、なんとかなるのですね。幹事(実行委員)は5人も集まりました。そして2年前から作戦開始！同窓会のための同期会の開催です。住所のメンテナンス、同窓会の予告と宣伝です。

平成19年1月、会場は同じ京王プラザホテルで63名が集まりました。ここで20年8月に

も集まるようにしつこく宣伝。そして、9月から本番準備に入っていました。

毎月の会議では、なかなか決まらないことやいろいろな問題を少しずつ解決していきました。とはいえ今回つくづく感じました、インターネットの凄いことを。会議の形で全員が集まらなくても、PC上でのやりとりを通して様々な課題をぱっぱと処理できてしまうことです。おかげで普段メールをほとんど見ない私は、チェックしなければメールボックスがいっぱいになってしまいう始末。みなさんにご迷惑をおかけしました。

私達の期は財務を担当しましたが、一番大変なのは郵便振込の集計です。それをひとりで処理した赤平さんは、凄かった！そんなこんなで同窓会は無事終わりました。私の余命があと20年だとしたら、同窓会でみんなに会えるのはたった5回なのかぁ...そんな思いもよぎりました。

何はともあれ、皆様お疲れさまでした。

常任幹事の皆様へ

記念同窓会の実施にあたりまして、名簿データの点検・修正、案内状の発送、当日受付など、準備段階から多岐に亘りご支援・ご協力をいただき、たいへんありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

記念同窓会の概要

- 〔名称〕 第10回記念同窓会 ~輝ける50周年への序章~
- 〔日時〕 2008年8月16日(土曜日) 午後6時から
- 〔会場〕 京王プラザホテル札幌 2Fエミネンスホール
- 〔出席数〕 513名 (前売り442名 + 当日71名)
- 〔寄付金〕 643,532円 (162名) (ご協力ありがとうございました。記念同窓会の清算が終了した後、残金とあわせて玉成会の予算に組み入れさせていただきます。)
- 〔食卓形式〕 着席式のbuffeスタイル
- 〔司会〕 堺 なおこ(11)、赤木 敏正(12)、渡辺 信一(13)
- 〔記念品〕 エコバッグ(160個)、携帯ストラップ(150個)
- 〔会議等〕 準備会(19.6.25)、総会への開催議案の提出(8/17)、実行委員会 (9/28)
名簿データの交付(20.2.23)、データ回収(5月中旬)、案内状発送(6/14)
実行委員会 (8/8)

実行委員

- 実行委員長 小原木正弘(11) 副実行委員長 柏 聡(12)
- 〔総務〕 櫛引重一(13)、田中瑞宏(13)
- 〔財務〕 丸山よう子(14)、赤平幸枝(14)、越山真次(14)、武田政司(14)、佐藤 博(14)
- 〔会場〕 石井吉重(11)、城戸博之(13)
- 〔企画〕 宇山茂一(12)、飯田順子(12)、中川祐男(12)
- 〔広報〕 樋口雅子(13)、大塚公仁子(11)、金川道子(11)、小島 勉(13)

【主な事務局活動】(H20.3月~)

役員・事務局合同会議(5/21)、役員会(7/30)

実行委員会との打合せ(7/8、7/30) ~実施概要、進捗状況、当日進行、集客計画等

平成20年度定期総会・第10回記念同窓会(8/16)

玉成会だより17号の発行(10/25) ~最終校正、印刷・封入・発送